

児島弘一郎先生を偲ぶ

上野 勝 広

(スペイン語)

それは月曜日の朝のことでした。スペイン語教室の齊藤先生が1時限目の開始前に私の部屋に訪ねて来られ、児島先生が急逝なさったとの知らせを伺ったのです。まさかそんなことがと耳を疑い、そして一瞬、いやしばらくことばを失ってしまいました。現実としてあまりに受け入れがたく、ショックが大きかったからです。自分よりひとまわりも若く、数日前まで元気でいらしたのにどうしてなのと。

児島先生とは特に個人的な親交はなかったのですが、外国語第2部門の同僚として敬意と感謝の眼差しを向けておりました。ご専門の研究と教育に真摯に取り組まれる一方で、昨年から学生部委員を、そして教職員組合の代議員を献身的に務めてらっしゃった姿が強く印象に残っています。班会のお知らせや代議員会の要領を得たご報告を丁寧なメールでいつも欠かさず送っていただきました。特に昨年末は超コマ基準の問題で、総合教育研究部が厳しい立場に置かれる状況に直面しました。部の組合員たちの意向をきっちり受けとめて敢然と代議員会に向かわれ、つらい難局を乗り越えるべく素晴らしい働きをなされたことは誰も否定できません。みんなのために粉骨砕身して汗をかかれる頼もしい姿に接し、ただただ感服した次第です。

児島先生が駒澤大学に奉職なさったのはわずか数年でしたが、その短い間にご自身の研究、学生のための教育、そして学内外の諸活動に多大で貴重な業績を残されました。外柔内剛にして温厚篤実な先生のお人柄とともに、それはいつまでも私たちの記憶にとどまってゆくことでしょう。

駒大在職中の輝かしいご活躍と柔和で優しい笑顔をここに偲び、謹んで児島先生のご冥福をお祈り申し上げます。